

# 第2回ヘルスコミュニケーション学記念セミナー

## 開会のご挨拶とご案内

東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻  
医療コミュニケーション学分野教授  
日本ヘルスコミュニケーション学会理事長

木内貴弘



東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻医療コミュニケーション学分野  
Dep. of Health Communication, School of Public Health, the Univ. of Tokyo





健康・医療の  
「伝える」、「分かる」、「変わる」を  
科学します！



東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻医療コミュニケーション学分野教授  
東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワーク (UMIN) センター長 (兼任)

Professor, Department of Health Communication, School of Public Health,  
Graduate School of Medicine, The University of Tokyo  
Director, University hospital Medical Information Network (UMIN) Center

医学博士・医師 **木内貴弘**

**Takahiro Kiuchi, M.D., Ph.D.**

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1

7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8655, Japan

Web: <https://www.umin.ac.jp/hc/>, Email: [tak-kiuchi@umin.ac.jp](mailto:tak-kiuchi@umin.ac.jp)



東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻医療コミュニケーション学分野  
Dep. of Health Communication, School of Public Health, the Univ. of Tokyo



# お話しする内容

## 1. ヘルスコミュニケーション学について

## 2. 各演者の紹介と講演の背景

### 1) 新型コロナウイルス感染症関連講演

「新型コロナ下の行動変容のコミュニケーションで「何を」「どう」伝えるか」

演者： 奥原 剛(東京大学大学院医学系研究科 医療コミュニケーション学分野 准教授)

### 2) 東京大学総長賞受賞記念講演

「患者の語りを社会に活かす～NPO活動と医学教育の橋渡し～」

演者： 香川 由美(東京大学特任研究員、東京工業大学 非常勤講師)

### 3) 順天堂大学大学院ヘルスコミュニケーション学コース開設記念講演

「順天堂大学大学院ヘルスコミュニケーション学コースの概要と将来的展望」

演者： 大野 直子(順天堂大学 医学研究科・国際教養学部 准教授)



# 1. ヘルスコミュニケーション学とは？



東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻医療コミュニケーション学分野  
Dep. of Health Communication, School of Public Health, the Univ. of Tokyo



# 21世紀の医学の課題はコミュニケーション

## 医学の3本の柱

- ・生物学(発見)
- ・データ(評価)、
- ・コミュニケーション(伝える)

古代～18世紀

魔術・体液説  
(ヒポクラテス、ガレノス)

19世紀

**生物学** ウィルヒョウ細胞病理学、コッホ細菌学⇒分子生物学  
(病気の生物学的解明とこれに基づく診断、治療法の発見)

20世紀

**データ**に基づく医療(臨床試験・疫学研究⇒人工知能)  
(診断、治療、予防法の評価)

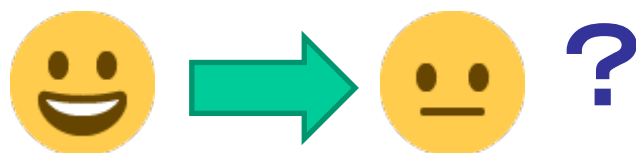
21世紀

**コミュニケーション**  
(伝える、分かる、変わる)



# ヘルスコミュニケーションとは？

1. 伝える



2. 分かる

(納得、腑に落ちる)

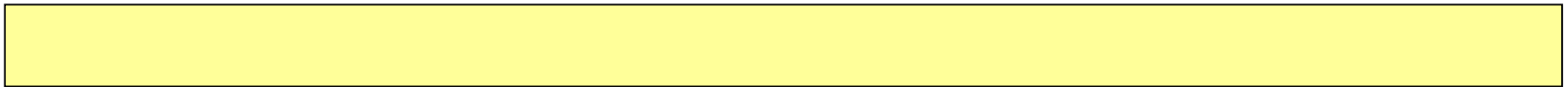


3. 変わる

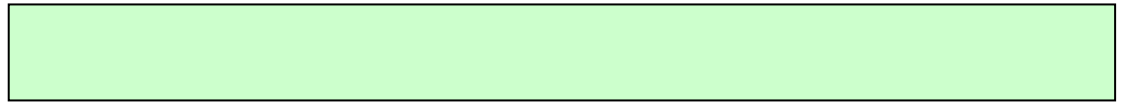


# ヘルスコミュニケーション学の 主要な研究対象

対人コミュニケーション(医療機関等:)



メディアコミュニケーション(マスコミ等)



メディアコミュニケーション(インターネット)



1970

1980

1990

2000



# ヘルスコミュニケーション学の歴史

- 1975年 国際コミュニケーション学会にヘルスコミュニケーション部門
- 1985年 米国コミュニケーション学会にヘルスコミュニケーション部門
- 1979年 学術雑誌Patient Education and Counseling発刊
- 1989年 学術雑誌Health Communication発刊
- 1996年 学術雑誌Journal of Health Communication発刊
- 1997年 米国公衆衛生学会にヘルスコミュニケーションWG
  
- 2001年 九州大学に日本で初の医療コミュニケーション学専任教員(教授、准教授)
  
- 2007年 東大に日本で2番目の医科大学の医療コミュニケーション学専任教員(教授、准教授)  
京大に日本で3番目の医科大学の医学コミュニケーション学専任教員(准教授)
  
- 2009年 日本ヘルスコミュニケーション学会(当時研究会)発足
  
- 2010年 日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌発刊
  
- 2018年 東大にがんを対象とするがんコミュニケーション学連携講座が設立  
帝京大に日本で4番目の医科大学のヘルスコミュニケーション学専任教員(教授)
  
- 2021年 **順天堂大学大学院に日本初のヘルスコミュニケーション専門コース設立**

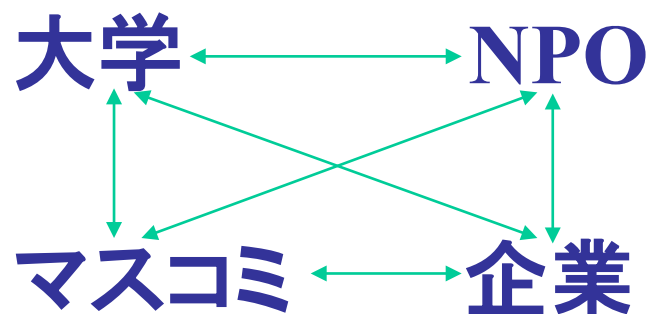
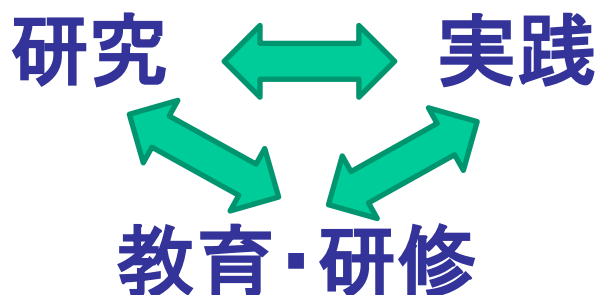




# 独立した専門分野としての ヘルスコミュニケーション学の確立に向けて

- すべての医療系大学(医科、歯科、薬学、看護、検査等)にヘルスコミュニケーション学の専門分野・専任教員を!

- 1) 学部・大学院教育、研修
- 2) 専門的研究
- 3) ヘルスコミュニケーションに関する実践



# ヘルスコミュニケーション研究の 具体例

- 東大で検診のチラシの研究を  
やってるって本当ですか？



# 婦人科検診受診のススメ

## 〇がんは働き盛りに好発！

がんは年をとってからなるもの…と思っていませんか？  
実は、**乳がんは40代から、子宮頸がんは30代から急増**します。

日本人女性の12人に1人に当たる約74,000人が乳がんになり、1年間に約14,000人が乳がんで亡くなっています。

子宮頸がんは、性交渉で感染するヒトパピローマウイルスが原因で、20代から30代で増加しています。1年間に約10,000人が子宮頸がんと診断され、約2,800人が亡くなっています。



## 〇がん検診を受けましょう！

乳がん・子宮頸がんは、検診の実施による死亡率の減少が明らかになっているんです。健保では今年も、女性の被保険者・被扶養者の皆さまを対象に、乳がん検診・子宮頸がん検診を実施します。自己負担なしで受診できます。

**乳がんは早期発見した場合は5年生存率がほぼ100%**であるのに対し、**発見が遅れた場合の5年生存率は33%**です。

**子宮頸がんは早期発見した場合の5年生存率92%**であるのに対し、**発見が遅れた場合は22%**まで落ち込みます。

乳がんは早期であれば乳房を温存する手術も検討可能です。

子宮頸がんも早期に発見すれば比較的治療しやすく予後もよいですが、進行すると治療が難しいがんです。

がんは早期発見・早期治療が非常に重要で、がん検診が早期発見のための唯一の方法です。

2年に1度は乳がん検診・子宮頸がん検診を受診しましょう。

健診・検診などについてのお問い合わせは  
担当：やまだ、すすき まで  
03-0000-0000

受診方法は裏面をごらんください

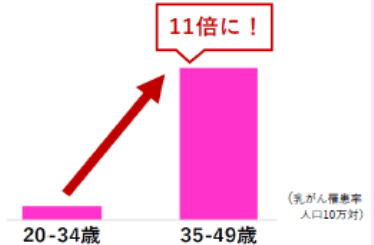


東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻医療コミュニケーション学分野  
Dep. of Health Communication, School of Public Health, the Univ. of Tokyo



# 乳がん・子宮頸がん検診のご案内

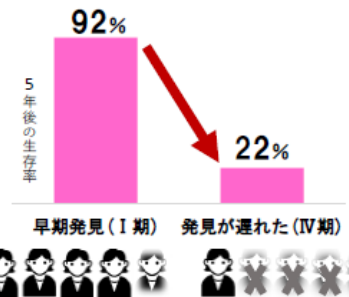
## 乳がん、子宮頸がんは30代から急増します！



## がんは早期発見が重要。なぜなら…

発見が遅れると、  
5人に1人しか  
助かりません。

(子宮頸がんの場合。乳がんは3人に1人)



早期発見なら、  
ほぼ全員が助かります。



異常を感じてからでは手遅れです。

早期発見できるのは、がん検診だけ。

10分の無料の検診で、安心したいと思いませんか？

有名人 (がんになった年齢)

乳がん：小林麻央さん(32) 北斗晶さん(48) 生稲晃子さん(43) 麻木久仁子さん(48) 南果歩さん(52)  
子宮頸がん：坂井泉水さん(ZARD)(39) 三原じゅん子さん(44) 古村比呂さん(46) 森昌子さん(52)

# 注意⇒興味⇒欲求⇒行動

Attention Interest Desire Action

1. 情報量を絞る
2. 見出しで気を引く
3. メリット・デメリットを明確に
4. 図表を使う  
(視覚的にわかりやすく)
5. 映像を使う  
(感情に訴える)

## 婦人科検診受診のススメ

### 〇がんは働き盛りに好発！

がんは年をとってからなるもの…と思っていませんか？  
実は、乳がんは40代から、子宮頸がんは30代から急増します。

日本人女性の12人に1人に当たる約74,000人が乳がんになり、1年間に約14,000人が乳がんで亡くなっています。

子宮頸がんは、性交渉で感染するヒトパピローマウイルスが原因で、20代から30代で増加しています。1年間に約10,000人が子宮頸がんと診断され、約2,800人が亡くなっています。



### 〇がん検診を受けましょう！

乳がん・子宮頸がんは、検診の実施による死亡率の減少が明らかになっているがんです。健保では今年も、女性の被保険者・被扶養者の皆さまを対象に、乳がん検診・子宮頸がん検診を実施します。自己負担なしで受診できます。

乳がんは早期発見した場合は5年生存率がほぼ100%であるのに対し、発見が遅れた場合の5年生存率は33%です。

子宮頸がんは早期発見した場合の5年生存率92%であるのに対し、発見が遅れた場合は22%まで落ち込みます。

乳がんは早期であれば乳房を温存する手術も検討可能です。

子宮頸がんも早期に発見すれば比較的治療しやすく予後もよいですが、進行すると治療が難しいがんです。

がんは早期発見・早期治療が非常に重要で、がん検診が早期発見のための唯一の方法です。

2年に1度は乳がん検診・子宮頸がん検診を受診しましょう。

健診・検診などについてのお問い合わせは  
担当：やまだ、すすき まで  
03-0000-0000

受診方法は裏面をごらんください



東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻医療コミュニケーション学分野

Dep. of Health Communication, School of Public Health, the Univ. of Tokyo



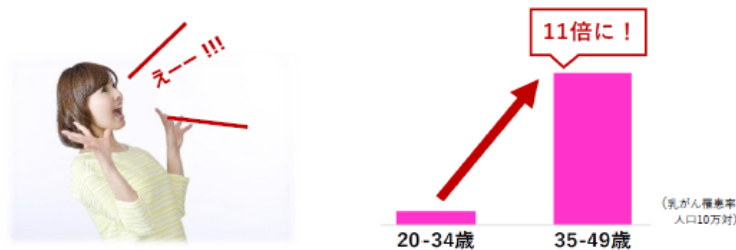
# 注意⇒興味⇒欲求⇒行動

Attention Interest Desire Action

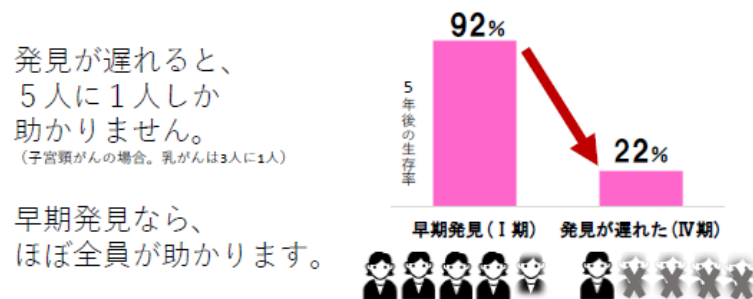
1. 情報量を絞る
2. 見出しで気を引く
3. メリット・デメリットを明確に
4. 図表を使う  
(視覚的にわかりやすく)
5. 映像を使う  
(感情に訴える)

## 乳がん・子宮頸がん検診のご案内

乳がん、子宮頸がんは30代から急増します！



がんは早期発見が重要。なぜなら…



異常を感じてからでは手遅れです。  
早期発見できるのは、がん検診だけ。  
10分の無料の検診で、安心したいと思いませんか？

有名人 (がんになった年齢)

乳がん: 小林麻央さん(32) 北斗晶さん(48) 生稲晃子さん(43) 麻木久仁子さん(48) 南果歩さん(52)  
子宮頸がん: 坂井泉水さん(ZARD)(39) 三原じゅん子さん(44) 古村比呂さん(46) 森昌子さん(52)



東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻医療コミュニケーション学分野  
Dep. of Health Communication, School of Public Health, the Univ. of Tokyo



# ヘルスコミュニケーション

クリエイターは、「既にやっている」  
⇒経験・技能・ノウハウ

1. 広告(テレビ、ネット、雑誌、チラシ等)
2. マーケティング
3. ニュース(テレビ、新聞)



# ヘルスコミュニケーション「学」 「科学する」とは？

## 1. 科学研究の要件を満たす厳密さ

- 1) 科学的な効果の測定・比較方法
- 2) 統計学による効果の判定
- 3) 正しい医学の知識

## 2. 知識の公開と構造化(教科書化)

⇒大学で教育できる形に

## 3. 目的の違い

⇒科学研究は公共の利益が目的



# HCW2021, Hiroshima

Health Communication Week 2021, Hiroshima  
(ヘルスコミュニケーション学関連学会週間2021、広島)

HCW2021総大会長 河口浩之(広島大学)

第13回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会  
大会長 河口浩之(広島大学)

第1回日本ヘルスリテラシー学会学術集会  
大会長 木内貴弘(東京大学)

第1回日本メディカルコミュニケーション学会集会  
大会長 中山健夫(京都大学)





# 東大医療コミュニケーション学分野 大学院生募集中

- 社会医学専攻(4年制)  
⇒博士(医学)
- 健康科学・看護学専攻(3年制)  
⇒保健学博士
- 公共健康医学専攻(1年制と2年制)  
⇒公衆衛生学修士(専門職)

詳細は、「医療コミュニケーション学」でネット検索



## 2. 各演者の紹介と講演の背景



# 1) 新型コロナウイルス感染症関連講演

「新型コロナ下の行動変容のコミュニケーションで「何を」「どう」伝えるか」

**演者： 奥原 剛**

(東京大学大学院医学系研究科 医療コミュニケーション学分野 准教授)

- ・**経歴：** フリーのライター出身
- ・**研究：** 子宮頸がんワクチン接種を勧めるメッセージのランダム化比較試験による比較研究により、東京大学の当教室で博士(保健学)を取得  
保健医療における説得的コミュニケーション研究の第一人者
- ・**実践：** 官公庁、健保団体等で、検診受診率を上げる方法等を非常に多数講演

\* 今回の講演内容は、既に朝日新聞、毎日新聞等で報道



## 2) 東京大学総長賞受賞記念講演

「患者の語りを社会に活かす～NPO活動と医学教育の橋渡し～」

演者： 香川 由美

(東京大学特任研究員、東京工業大学非常勤講師)

- ・経歴： 1型糖尿病の患者(当事者)
- ・研究： 「患者による医療の改革」を目指して、東京大学の当教室で博士(医学)を取得  
医学教育における患者の語り(ナラティブ)の当事者研究者
- ・実践： 患者の立場で、多くの大学、企業等で講演  
患者による語りのできる患者講師の養成



### 3) 順天堂大学大学院ヘルスコミュニケーション学コース 開設記念講演

「順天堂大学大学院ヘルスコミュニケーション学コースの  
概要と将来的展望」

演者: 大野 直子

(順天堂大学 医学研究科・国際教養学部 准教授)

- ・経歴: 医療機器メーカー出身、英国で通訳・翻訳で修士号
- ・研究: 医療通訳養成プログラムのランダム化比較試験による比較・評価で  
東京大学の当教室で博士(医学)を取得  
⇒Evidence-basedな医療通訳学研究的の第一人者
- ・実践: 医療通訳、医療翻訳の経験



ヘルスコミュニケーターとしての医療通訳者  
⇒医療通訳は、高度のヘルスコミュニケーション  
(基本的なヘルスコミュニケーション能力が前提)

### 医療通訳の能力

=外国人患者を対象とした

外国語でのヘルスコミュニケーション

### 異文化コミュニケーションの能力

=外国人患者を対象とした

日本語でのヘルスコミュニケーション

### ヘルスコミュニケーションの能力

=日本人患者を対象とした

日本語でのヘルスコミュニケーション



# 21世紀の医療通訳の課題はコミュニケーション

## 医療通訳の3本の柱：語学、医療、コミュニケーション

### 語学

(通訳の大前提、これなくしては始まらない)

**医療**に関する知識、会話、文化、制度、慣習の理解  
(「医療」通訳の誕生)



AIによる  
機械翻訳の進化

### コミュニケーション

異文化コミュニケーション

ヘルスコミュニケーション

(機械ではできない医療通訳⇒信頼、安心、満足)



# 順天堂大学大学院に 日本初のヘルスコミュニケーションコース！

## ○医療通訳の資格が取れるコース

- 医療通訳≠語学＋医療に関する知識
- 医療通訳＝語学＋医療に関する知識  
＋異文化コミュニケーション  
＋ヘルスコミュニケーション

\* 医療通訳の養成コースは、医療機関・医療関連企業等の広報・患者サービス担当、患者の代理人、医療ライター等の養成コースにもなり得る。





# ご清聴ありがとうございました。

- 本資料は、本セミナーHPからダウンロードできます。
- 引き続きセミナーをゆっくりお楽しみください。

